

第四回

玉川ルネサスリストラ相談会

ルネサスリストラ
相談会報告
第4号
発行日：2014.2.27

二月二一日(金)に、第四回目となる相談会を開催いたしました。

職場の声

- ・職場の同僚3人が悩んでいて、その人たちから「相談会で聞いてきて」と頼まれて相談会に参加した。
- ・武蔵への異動が言い渡されたが、通勤に時間がかかり、親の介護があるので困っている。
- ・最近家を購入したばかりで、転勤は想定外。子供が幼いので、遠地への転勤は難しい。
- ・来週から早期退職の面談が始まる。すでに退職を決めている人もいる。
- ・作田会長が玉川に来て、経営方針の説明をした。話の最後に、「今後のルネサスにわくわくする人は来てください。リスキーだと思えば、社外に行つて欲しい」と言っていた。リスキーだろうか、辞められない者の気持ちが全くわかっていない。
- ・隣の人が怒って、「仕事をやる気は無くなったが、意地でも辞めるかという気持ちになった」と言っていた。

玉川事業所存続の訴えを開始

二月十八日(火)に、ルネサス関連労働者懇談会、電機・情報ユニオン、川崎労連が共同で、「ルネサス玉川事業所閉鎖反対」の宣伝行動を実施しました。行動には、計27名が参加して、ルネサス憩びラ第15号を1600枚以上配布いたしました。ピラを受け取った人からは、「頑張ってください」という励ましの声や、「作田会長はダメだよ。ルネサスもお終いだ」等の怒りの声をかけられるなど、多くの反応がありました。玉川が仮に会社計画通り閉鎖されると、現在勤務している2300人のうち、1600人は武蔵事業所(東京都小平市)に、500人は高崎事業所に、200人は那珂事業所(茨城県)に異動します。高崎や那珂への異動者はもちろんですが、玉川へは横浜以南から通勤している人も多く、その場合、武蔵への異動であっても通勤が困難になります。電機・情報ユニオンには、母子家庭でこれ以上の転勤は困難なので、3月末の早期退職に応募するしかないのだろうかという相談や、出産を控えているのに転勤を言い渡され、どうしたら良いか困っているなどの相談が相次いでいます。

子育てをしながら、働き続けられる環境を整えることは、社員が当たり前に生きていく事を保証するという意味で、賃金を払うとか、労働時間を守ることなどと並んで、企業にとって当たり前のこととすべきです。育児環境の整備は、利益を上げた企業のごほうびではありません。事業活動の前提となるものです。

ルネサスエレクトロニクス労組の働きかけによって、一部の人には近隣の企業等で働く場所が確保されようとしていますが、限界があるようです。必要な雇用が確保されるためには、玉川事業所の全部または一部の存続が不可欠です。

実態として女性が大量に退職する事になるのであれば、これは(現行法で該当するか否かは別としても事実上は)女性に対する間接差別にあたると考えます。この不当さについては、今後さまざまな方法で周知を図っていく必要があるでしょう。

玉川事業所は、日本を代表する半導体の設計開発拠点として、NEC時代から半世紀以上の歴史を持っています。この伝統ある玉川の歴史の最後が、人権も誇りも無視したリストラで、はじめに終わる事のないよう、今後も訴えを続けていきます。

次回第5回目は、2月28日(金)の18時より20時まで開催いたします。開催時間帯であれば、いつでも御入室いただいても構いません。職場でお誘いあわせのうえ、お気軽にご参加ください。

- ◆場所：中小業者総合センター 2階会議室
川崎市中原区下沼部 1880
- ◆主催：電機・情報ユニオンルネサス懇
- ◆連絡先：森 英一
(090-4834-6876)
- ◆参加費：無料